

2022年度 学校関係者評価委員会

日時	2023年2月22日(水) 13:00~15:00	場所	国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 8号館3階ホテル実習室	進行	原田
	議事		菜原		
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・今関 真治 (千葉都市モノレール株式会社 総務部長) ・小亀 さおり (Aqua Dream Project 代表) ・原田 正隆 (千葉市民活動支援センター コーディネーター) ・横山 隆 (株式会社千葉京成ホテル 京成ホテルミラマーレ 総支配人) 				
議題	<学校職員> *オブザーバー参加 <ul style="list-style-type: none"> ・矢口 博士 (校長/本部長) ・大久保 昇 (ホテル科学科長) ・河下 和浩 (就職室) ・槍崎 さやか (広報室室長) ・菜原 和希 (夜間部学科長 兼 エアライン科) 				
	1. 2021年度重点方針 2. 2021年度自己評価				
議事録	1. 2021年度重点方針 教職員、学生が元気な学校であるためには、学生が振り返った時にITHBに入学して良かったと思ってもらえることである。5年後、10年後の中長期的将来を見据え、今まで実行してきたこと全てを踏襲するだけでなく、学習成果を今より向上させられるように他の元気な学校を研究し、見直しや新たな取り組みを進める。私たち教職員も学生から見られているという意識を持ち、普段の姿勢や行動に磨きをかけ学生の手本となる。専門教育の更なる充実を図りながら、各自が主体性を持ち、互いが認め合い、ヒトの良い所を見て成長する1年とする。				
	2. 2021年度自己評価 (1) 教育理念・目標について 4：理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか。【評価3→3】 →特色化の一つとして企業との連携を挙げることができる。21年度はコロナ禍であったが従前同様の実習先確保や授業・行事での企業連携を進めることができた。 5：社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。【評価3→3】 →すでに中長期の構想として策定されていたデジタル化がコロナ禍で予定よりも前倒して実施された。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学校関係者からの質問・意見</div> 5：社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。 委員：観光科の新たな展開として、どのような要素を取り入れていくか。 学校：コロナ禍を経て各地にアウトドア施設が拡充し、千葉県内にも数多く新設された。今後、観光に自然の要素を取り入れたアウトドアに関する学びを新たに取り入れ、都内との差別化を図る。				
	(2) 学校運営について 6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。【評価3→3】 →社会全体のコンプライアンス体制がますます整備されていく中で、当校の取り組みは大きく変わっていないが、外部とのかかわりの中で適切な体制は整備されている。				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学校関係者からの質問・意見</div> 6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 委員：学生に対する具体的なコンプライアンス教育について。 学校：学生全体に対して、共通の資料を使用し年1回指導を行っているが、理解が十分とは言えない。実施方法や内容について一層充実を図っていく。また、外部講師を招聘し、教職員への教育も検討していく。				
	(3) 教育活動について 6：関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に				

位置づけられているか。(評価 3→3)

→21年度はコロナ前と同様に夏・冬の実習をそれぞれ実施する事ができた。

学校関係者からの質問・意見

特になし。

(4) 学修成果について

1：就職率の向上が図られているか。【評価 4→4】

→昨年度と比較して求人の回復傾向が見られた。就職率も改善している。

3：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。【評価 3→3】

4：卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。【評価 2→2】

→学校が主導しての卒業生情報の把握は昨年度同様に出来ていない。新しい学生連絡アプリは卒業後も連絡ツールとして使用が可能なことから、この機能を利用して就業状況などを確認していく。また卒業後比較的短い期間で卒業生を集め、後々同窓会に繋がるような下地を作っていく。

学校関係者からの質問・意見

特になし。

(5) 学生支援について

4：留学生に対する相談体制を整備しているか。【評価 4→4】

→担任による個人面談の実施と併せて各教職員がそれぞれの専門に則した学生相談を行っている。

特に留学生は担任の枠に留まらず教職員一丸となって対応した。

6：学生の健康管理を担う組織体制はあるか。【評価 3→3】

→メンタルヘルスについてはスクールカウンセラーを配置しており、学校提携の医療機関がある。

コロナウィルス、インフルエンザの職域接種を実施し、学内での感染予防対策を講じたことで、学外での課外活動も実施することができた。

8：保護者との連携対策を構築しているか。【評価 4→4】

→保護者にわかりやすく、学生預り金の使用状況を明確化し案内を行った。また、保護者に対して課外活動の主旨と参加同意書を送付することで、課外活動実施の必要性や安全性を伝えた。

学校関係者からの質問・意見

10：社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。

委員：多様な価値観（性別・留学生等）を受け入れるための運営体制・施設は構築できているか。

学校：性別について、引き続き、学校運用並びに施設を検討していく。また留学生については受け入れ態勢は整っているが、入学後にビザや各種制限により退学となる学生がいるため、入学後に教育を行えるよう教職員も説明が出来るようビザ等について学んでいく。

(6) 教育環境について

3：学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。【評価 3→3】

→コロナの影響もあり、海外研修は実施できなかったが、国内研修については保護者同意のもと、可能な限り実施した。

学校関係者からの質問・意見

4：防災に対する体制を整備し、適切に運用しているか。

委員：防災訓練の実施内容・回数と、非常時の備えはどのようになっているか。

学校：学園全体で、地震・津波に対する年1回の防災訓練を実施。千葉市のガイドラインに沿った備蓄品を準備しており食品に関しては都度入れ替えを行っている。

(7) 学生の受け入れ募集について

3：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。【評価 3→3】

→教育成果をはかる指標の一つとして検定・資格情報を挙げる事ができるが、伝え方についてはより情報の整備をして載せる必要がある。

4：入学選考基準を明確化し適切に運用しているか。【評価 3→3】

→特待生面接ではより客観性・公平性を増すために面接に加えてグループワークを新たに追加した。

6：入学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いを行っているか。【評価 4→3】

→募集要項上に辞退における学納金返却について記載している。辞退者は辞退届を記入し、学校は学納金返却に係る書面を用意し、取り交わしを行う。より分かりやすい表記を検討していく。

学校関係者からの質問・意見

2：学生募集活動を適切、かつ、効果的におこなっているか。

委員：少子高齢化による入学者減少が見込まれるため、より学校の魅力を広めるための啓蒙活動等を実施し、学生だけではなく、今後より保護者の信用を得ることが必要となるのでは。

(8) 財務について

3：予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか。【評価 3→4】

→コロナ禍で学生募集は厳しい状況である。入学想定人数を下げ、最低人数での運営を考える必要がある。

学校関係者からの質問・意見

特になし。

(9) 法令等の遵守について

3：自己評価の実施体制を整備し、問題点の改善を行っているか。【評価 3→3】

→内部質保証の研修を受けた事は学校評価を行う上でプラスの効果を生み出す事につながったが、コロナ対応などにより自己点検の実施が遅れ、学校関係者評価委員会の実施が年度末となった。そのため十分に議論を尽くせたとはいえない。

学校関係者からの質問・意見

特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献について

1：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。【評価 4→4】

→20年度感染症まん延防止のため中止していた仕事体験会（キッズハッピープロジェクト）を21年度夏季に実施（2回目実施定であった冬季仕事体験会は中止）

学校関係者からの質問・意見

1：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

委員：仕事体験会は小学生向けのイベントであるが、早い段階でファンを作り、中学→高校とステップアップする仕組みを作っていくとよい。

2：地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。

委員：観光業界が低迷している中、観光業界に関する公開講座等を実施してみてもは。（オンライン等）

学校：当校の関連分野の中で一般の方を対象とした公開講座を行うとした場合のニーズが把握できていないため、今後の動向に注視し、ニーズ把握に努めていく。

(11) 国際交流について

2：留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続等がとられているか。【評価 4→4】

→21年度も在籍管理が適正に行われている適正校*として認められている。より適切な管理手続を行うために、出願時は書類や面談における確認項目を増やし対応している。（日本語学校時代のアルバイト時間など）

*適正校は入学後の在留資格「留学」が原則専門学校卒業まで付与される。

学校関係者からの質問・意見

特になし。

[補足] 委員会当日欠席の委員には後日自己点検表を送付し意見聴取を行う。